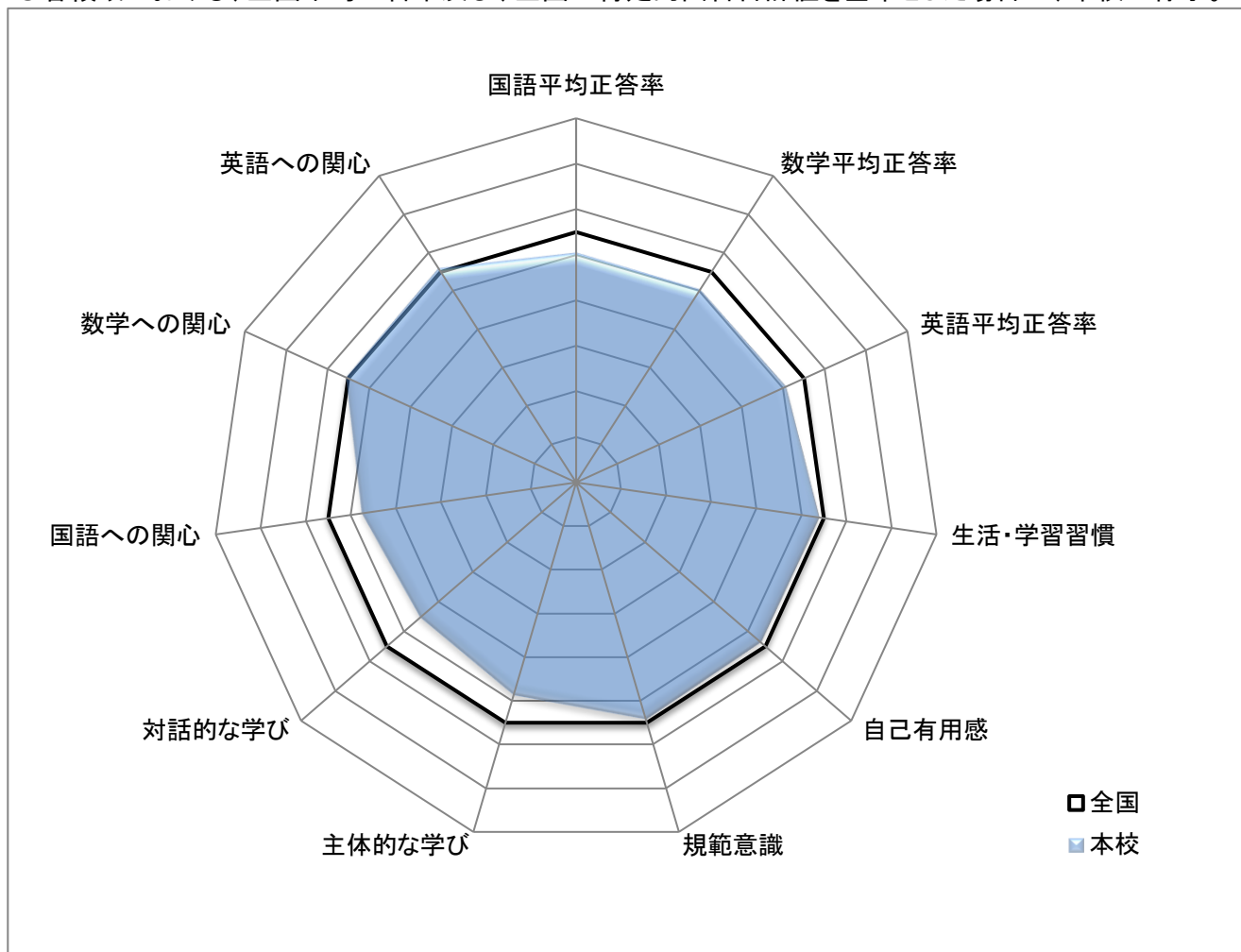


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】主に「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと」と「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解していること」に課題がある。

【数学】文章題やグラフから読み解く問題に苦手意識のある生徒が多くみられる。

【英語】問題に対して自分の意見を英文で書いたり、説明することに苦手意識がある。今回の調査においても、英作文に関係する問題の正答率は低く、無解答率は高い。

《授業改善のポイント》

【国語】グループでの話し合い活動を通して、他者の意見を聞きながら自分の意見を明確に発表できるようにする。また、辞書などを活用し、多様な語句を知識として覚えるだけでなく、日常生活でも適切に活用できるように短文づくりや作文の中で積極的に活用するように指導する。

【数学】文章題において、説明すべき事柄とその根拠の両方を示しつつ、問題文のどの文章がどういった数式として書き表されるのかを明確に授業を行う。また基礎的な計算を確実にこなす力を身に付けられるよう、問題演習を徹底する。

【英語】自分の意見や考え、経験などを英文で書く機会を多く与える。また、英文を書くことへの苦手意識を克服できるように、ALTの協力を仰ぎながら、簡単な単語を用いた表現でも伝わることを指導していく。

《チャートの特徴》

国語では、平均正答率・国語への関心ともに、全国を下回っている。数学の平均正答率は都平均の9割であった。数学への関心はわずかながら都平均を上回った。特に「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」の2項目が平均を越えている。このことから授業で理解しようとする姿勢はよく見られる。英語の関心は、全国と同等であるが、平均正答率は全国を下回っている。対話的な学び及び主体的な学びについて、肯定的に解答する生徒の割合が、本校は全国を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

学習した語句や内容を日常生活で生かせるよう、家庭での会話を大切にもらうよう学年通信などで働きかける。家庭学習の習慣が自主的に身に付けられるよう、教科で課題を出す意識をし工夫する。また、英語に触れる機会を設けてもらえるように声かけをする。